

8-4-27 社会マネジメント技術委員会

1. 主な活動の記録

(1) 委員会の開催

令和5年度は、社会マネジメント技術委員会を1回(7月)開催した。

社会マネジメント技術委員会を開催しない月でもメール等を活用し、後述する上位委員会から依頼される検討事項や傘下の専門委員会に関する情報交換を実施した(専門委員会・WGの月次報告・イベント報告、統括技術委員会・技術部会の審議・指示事項の周知・対応等)。

(2) 専門委員会の事業内容等について

本技術委員会傘下の専門委員会における令和5年度の主な活動内容等について以下に示す。

a) 都市計画専門委員会：今年度はWeb形式やメールでのやり取りにより実施した、①毎年継続実施しているRCCM教材作成は、都市計画関連制度の動向に合わせて随時改定を実施、②「都市計画講習会」の令和5年度開催は諸事情により見送りとした。

b) 参加型計画専門委員会：①9月、10月2回で現地視察や意見交換などを含めた勉強会を実施、②1月には①の成果を紹介すると共に、明治大学 塚本 一郎 教授を講師としてSIBに関連した講演と参加型計画の今後展開、建設コンに求められる技術と役割について、意見交換を行った(Web開催で約100名が参加した)。

c) 政策・事業評価専門委員会：①6月「コンパクトシティ」や「流域治水」に着目した国内取組み事例(富山市中心部と宇奈月ダム)などについて委員会内有志で視察を実施、②12月に「動き出した流域治水(第二弾)～本格的な実践に向けて～」としたセミナーを開催(Webでの参加者237名)した。

d) 環境専門委員会：①RCCM建設環境分野の教材作成などの改訂作業を継承実施、②10月の2日間で福島県郡山市において「震災復興における環境課題の解決と現状」についての講演会と現地見学会を開催、③最新技術情報、

話題性の高い事項の勉強会を計6回実施(特に河川環境行政については外部講師を招いた勉強会を実施)。

e) 施工管理専門委員会：①継続して実施しているRCCM教材を作成、②会員各社が受注した施工管理業務の実態についてアンケート調査を実施し、契約内容、職場環境等の調査を行い報告書としてとりまとめた。

f) 国土情報専門委員会：①流域治水を実現するための具体的な整理をするとともに次世代流域治水に向けた提言書を作成、②この提言に関して有識者や行政機関と連携して実フィールドでの試行を調整中である。

g) 自動運転WG：①調査研究テーマ(国の政策動向、車等の動向、道路空間等の動向、まちづくり・公共交通との関係、制度設計の動向、地域実装・提供サービスの動向等)について情報の収集・整理、②10月に自動運転バス社会実装の先進事例である福井県永平寺町の視察をWGメンバーにて行い、結果を取りまとめた。

(3) 個別検討テーマへの対応

統括技術委員会等からの依頼事項の中で主な検討内容について以下に示す。

a) ビジョン2025「将来のインフラのあり方とその理由」への対応

各専門委員会から「将来のインフラのあり方とその理由」に関する見解をとりまとめた。

b) その他

共通仕様書・歩掛改定要望への意見集約、「令和6年度 要望と提案」に関する資料作成と調査資料集のデータ更新などへの対応を行った。

2. 次年度の活動について

社会マネジメント技術委員会として、令和元年度から始まった本事業を引き続き実施する。

(1) 事業計画に基づく技術委員会の定例的活動

(2) 委員会が対応すべき分野横断的な諸テーマの検討、特に技術部会や統括技術委員会等から依頼される各種検討事項等への対応

(社会マネジメント技術委員会委員長 篠崎 毅)